

# 目次

<b>第2章 勝手にオススメ！JAWS-UG朝会の魅力発信</b>	<b>8</b>
2.1 JAWS-UG朝会はLT登壇初心者にもやさしい5分枠あり！ . . . . .	8
2.2 JAWS-UG朝会はしっかり伝えたい方にもやさしい20分枠あり！ . . . . .	8
2.3 朝だからこそ参加しやすい！ . . . . .	9
2.4 さいごに . . . . .	9
<b>第3章 東京支部のススメ</b>	<b>10</b>
3.1 東京支部リブート . . . . .	10
3.2 ランチタイムLT会 . . . . .	10
3.3 特產品 . . . . .	11
3.4 昔話：4人集まらない呪い . . . . .	11
3.5 さいごに . . . . .	11
<b>第4章 JAWS-UG Sales支部とは？</b>	<b>14</b>
4.1 初心者でも楽しく参加できるポイント . . . . .	14
4.2 イベント内容と支部の雰囲気 . . . . .	15
4.3 おわりに - 初心者こそSales支部へ！ . . . . .	15
<b>第5章 転職にも良く効く CLI専門支部</b>	<b>17</b>
5.1 10年経っても陳腐化しないAWS知識 . . . . .	17
5.2 CLIでのAPI知識は転職によく効く（通称「JAWS-UG 転職支部」） . . . . .	18
5.3 CLI専門支部の最近の活動 . . . . .	18
<b>第6章 JAWS-UG 情シス支部とは？</b>	<b>20</b>
6.1 JAWS-UG 情シス支部が生まれたきっかけ . . . . .	20
6.2 こんな人におすすめ . . . . .	20
6.3 Before 2020, and after . . . . .	21
6.4 それなら、地方で情シス支部をしよう！ . . . . .	22
6.5 おわりに . . . . .	23

<b>第7章 JAWS-UG 新潟支部の紹介</b>	<b>24</b>
7.1 活動内容 . . . . .	24
7.2 なぜ新潟支部？ . . . . .	25
7.3 さいごに . . . . .	25
<b>第8章 Gov-JAWSの概要</b>	<b>27</b>
8.1 なぜ公共でクラウドなのか？ . . . . .	27
8.2 公共分野の専門支部が必要な理由 . . . . .	27
8.3 Gov-JAWSが目指すもの . . . . .	28
8.4 Gov-JAWSの運営 . . . . .	29
8.5 勉強会について . . . . .	29
8.6 勉強会開催実績 . . . . .	29
<b>第9章 NW-JAWSのススメ</b>	<b>31</b>
9.1 NW-JAWSとは . . . . .	31
9.2 初心者向けにおすすめポイント . . . . .	32
9.3 NW-JAWSの特有のワード紹介 . . . . .	32
9.4 さいごに . . . . .	33
<b>第10章 IoT専門支部</b>	<b>35</b>
10.1 IoT専門支部って？ . . . . .	35
10.2 IoT専門支部の歴史 . . . . .	35
10.3 IoT専門支部の今後 . . . . .	36
10.4 さいごに . . . . .	36
<b>第11章 社会人一年目がオススメする JAWS-UG DE&amp;I支部</b>	<b>38</b>
11.1 DE&I支部とは . . . . .	38
11.2 どういったイベントがあるのか . . . . .	38
11.3 オススメポイント . . . . .	39
11.4 さいごに . . . . .	40
<b>第12章 JAWS-UG 横浜支部で人生初の LT 登壇を経験して</b>	<b>41</b>
12.1 初めての登壇までの道のり . . . . .	41
12.2 10年の歴史を持つコミュニティの温かさ . . . . .	42
12.3 素晴らしい開催環境 . . . . .	42
12.4 継続的な学びの場 . . . . .	42
12.5 初心者の方へのメッセージ . . . . .	43

<b>第13章 歴史を知る機会になる！Storage支部</b>	<b>44</b>
13.1 Storage支部とは？ . . . . .	44
13.2 歴史に思いを馳せることができる . . . . .	44
13.3 専門支部、怖くなかった！ . . . . .	44
<b>第14章 私のコミュニティ活動とEducation-JAWS</b>	<b>46</b>
14.1 登壇したきっかけ . . . . .	46
14.2 初心者にも温かいコミュニティ . . . . .	46
14.3 Education-JAWSは将来の技術者を育てる場 . . . . .	47
14.4 さいごに . . . . .	47
<b>第15章 実践的なTipsが盛りだくさん！JAWS-UG CDK支部のすすめ</b>	<b>48</b>
15.1 AWS CDKとは？ . . . . .	48
15.2 どんなイベントをやってるの？ . . . . .	48
15.3 おすすめLT/セッション . . . . .	49
15.4 さいごに . . . . .	50

## 第1章

# Vivliostyle base theme サンプル

石原晶子(高野)

マークダウンより pdf 出力する記法サンプルです。出力結果は  
2025jawsugbgnr.pdf、または npm run build で生成したpdfをご確認ください。

## 1.1 Demonstration of inline tags

以下文中の強調に使えるサンプルです。

斜体 / 太字 / 車体太字 / インラインコード / 取り消し線 / でっかい文字 / 小さい文字 /  $H_2O$  /  $x^2$  / Ruby / Inline link / [Block link]  $E = mc^2$

- 見出し

H1 は文中で使わないようにしてください。

## 1.2 Heading 2

### 1.2.1 Heading 3

Heading 4

Heading 5

Heading 6

---

## 1.3 リスト

- 第一
- 第一
- 第一
  - 第二

- 第二
- 第三

1. ほげ
2. ほげほげ
3. ふが
4. ふがふが
5. にゃんこ

段落 html タグ

なんか Tips みたいに書きたいときに使おう

## 1.4 引用や文献や概要

```
echo "Kiro" echo "Kiro waitlist…"
echo "zenzinrui Kiro de asonderu iina
20250715"
```

## 1.5 コードブロック

```
https://kiro.dev/downloads/
```

## 1.6 図



図1: Takano Logo

## 1.7 テーブル

表1: Markdown table

aaa	bbb
ooooooooooooooooooooong	aaaaaaaaaaaaaaaaaaaaable

表2: HTML complex table

Quarterly Earnings		
Q1	Net Income	\$50,000
	Total Revenue	\$100,000
Q2	Net Income	\$60,000
	Total Revenue	\$110,000
Total Earnings		\$110,000

## 1.8 脚注に出したいとき

となりに小さい数字が出ます \*1 \*2

## 1.9 章節項を自動で数字を出したいとき

章番号 §1, 節番号 §1.2and 項番号 §1.2.1.

## 1.10 図番号 自動で数字を出したいとき

画像 図1and テーブル 表1.

## 1.11 改行

---

\*1 ちょっとこうすると技術書っぽいですよね。

\*2 うん。

```
<hr class="page-wrap" />
```

hr classで改行できます。

## 1.12 参考文献

参考文献として FootNote に 出したいときその2<sup>1</sup> の書き方はこうです。

著者紹介は形式を真似して書いてください。好きなリンクも適宜入れてOKです。

### 著者紹介

---



高野(石原晶子) [@takano0131](#)

サークル名：とりむねにく

主にコミケと技術書典と都内ライブハウスと目黒に出没するインフラエンジニア。  
おうちだいすきインドア。

JAWS-UG では初心者支部の運営、所属会社は週 5 出社が義務付けられたことで話題のAPN企業です。会社が家に来い…

---

1. やっぱりこうすると技術書っぽいですよね.[\\_](#)

## 第2章

# 勝手にオススメ！JAWS-UG朝会の魅力発信

山本 直弥（Nao）

JAWS-UG朝会の運営メンバー！・・・ではない私ですが、朝会にはよく参加させていただいているのでその魅力を勝手に発信します。

JAWS-UG朝会のConnpassページ：<https://jawsug-asa.connpass.com/> LT登壇応募ページ：各イベントページに応募ページのURLあり ※LT登壇は順番待ちとなるため、応募した月のイベントでLT登壇できるとは限りません

## 2.1 JAWS-UG朝会はLT登壇初心者にもやさしい5分枠あります！

JAWS-UG朝会ではAWSに関することならどんなテーマでもOKの優しいイベントです。何かの失敗談でもAWSサービスを使ってみた所感でもOKです。登壇時間も5分枠と20分枠があるので、LT登壇の経験があまりなく登壇の経験を積むためにより気軽にLT登壇したい！という場合に5分枠で好きなテーマで登壇にチャレンジしたい方にはとてもオススメです。5分枠で登壇に慣れてきて、より深い話がしたいという方には20分枠でチャレンジも可能です。LT登壇の経験がなかった頃の私がそうでしたが、AWS専門のコミュニティのLT登壇会というとスキルの高い技術者が集まって専門的なことや技術の深いところを語り合う場というイメージがありました。そんなLT登壇初心者の方にとって、テーマはなんでもありで登壇も短めの枠があるJAWS-UG朝会は優しい支部になっています。

## 2.2 JAWS-UG朝会はしっかり伝えたい方にもやさしい20分枠あります！

JAWS-UG朝会には20分枠が毎月2枠用意されています。私の経験では他のJAWS-UG支部では基本10分でたまに15分の枠があり、20分のものは珍しい方で貴重な機会かなと思いますが、朝会は毎回2枠が20分です。自身の知識や経験、伝えたいことを余すことなく伝えたい方は是非この20分枠で伝えてください。20分枠とはいえ、技術的に高レベルである必要はありません。AWSに関することで伝えたいことがある方は是非20分枠で参加応募してみてください。

## 2.3 朝だからこそ参加しやすい！

近年はオンラインイベントが多くなってきましたが、急な残業の発生などの業務都合や会社から自宅までの移動が間に合わなかったりと人によっては必ずしも業後のイベントに参加しづらい方もいらっしゃると思います。そんな方は朝会の参加を検討してみてください。朝会は朝の7:30から9:00まで開催されているので、出社前に最初の方だけ参加したり在宅の方であれば業務開始前に朝のラジオ代わりに内容を聞いてみても良いと思います。

## 2.4 さいごに

5分枠、20分枠ありのAWSに関することであればどんなテーマでもOKのJAWS-UG朝会は初心者から熟練者まで多くの人のニーズにこたえられる発信の場になっていると思います。何か発信したいことがある方は是非参加申込/LT応募してください。※寝坊には気を付けて。

### 著者紹介



#### 山本 直弥 ( Nao )

X : <https://x.com/nananaonana7>

Qiita : [https://qiita.com/Nana\\_777](https://qiita.com/Nana_777)

lit.link : <https://lit.link/nao777nanaarchitect>

所属 : [JAWS-UG 名古屋支部](#)

2025~ AWS Community Builder (DevTools)

2023~ AWS All Certifications Engineer

今力を入れてること：技術アウトプット(LT登壇、ブログ投稿など)

すきなもの：バーチャルおばあちゃん、ながの（ちいかわ）、真勇者ルーサー、神田伯山さん

## 第3章

# 東京支部のススメ

大木 裕介 (y-ohgi)

JAWS-UG東京支部の紹介をさせていただきます。

<https://jawsug.connpass.com>

## 3.1 東京支部リポート

支部の発端はみのるんさんが2年前に東京支部のリポートツイートを行い、そこ  
のリプライに集まった3人とみのるんさんからリポートが始まりました。

2年間4人固定で運営してきましたが、2025年の秋に5人目となるふくちさんが  
Joinしてくださいました！

## 3.2 ランチタイムLT会



毎月やっているランチタイムLT会は最初の半年でそれぞれが「司会係」「配信係」  
「X(旧Twitterを監視して質疑応答を拾う)係」のおおまかに3つのロールを作つてそ  
れぞれ順番に回しました。そのおかげで半年後には実質バス係数4になり、1人で  
もランチタイムLT会ができる体制が整いました。配信当日までの登壇者へのアポイ  
ントやアンケート作成・次回のconnpass作成などはベストエフォートで「できる  
人がやる」形で回しています。

### 3.3 特產品

東京支部の特產品としては「運営がスタンドアローンで思いついた勉強会を生やしてやりたいことをやる」というものがあります。

みのるんさんによる Bedrock Night、watany さんによる Presents 400、私 (y-ohgi) による Community Builders Night など、各自がスタンドアローンで勉強会を主催しています。

これは各位の経歴的にクラウドを推進するポジションに居たことがひとつの理由なのかなと思っています。

また、それぞれのイベントをサポートし合うところもこの支部の良いところだと思っています。

### 3.4 昔話: 4人集まらない呪い

2025年秋まで4人での運営を行い、毎月ランチタイムLT会を行っているのですが運営4人が集まつたことがオンライン・オフラインともに極めて少ないです。

4人なのに片手で数えられる回数しか集まつたことがない謎の呪いがかかっていました…

今はふくちさんが積極的に活躍してくださってます！感謝！f

### 3.5 さいごに

東京支部が行っているランチタイムLT会は毎月完全オンラインで全国から登壇者を募集しています。

完全抽選性で1枠5分なのでカジュアルにアウトプットの最初の一歩目として是非登壇していただきたいと運営一同思っています。

### 東京支部運営メンバー

---



**みのるん @minorun365 (KDDIアジャイル開発センター株式会社)**

クラウドや生成AIで内製開発を行いながら、技術の楽しさを伝える活動を行っています。

AWS Community Hero, AWS Samurai, 2025 Japan AWS Top Engineer & All Certs, Qiita 2024 Top Contributor / 著書「Amazon Bedrock 生成AIアプリ開発入門」(SBクリエイティブ)、「やさしいMCP入門」(秀和システム)



**watany @\_watany (NTTテクノクロス株式会社)**

2015年からAWSを用いた開発に携わり、アーキテクト・運用設計支援として活動する一方で、社内にてテクニカルサポートや研修講師を務めています。

また、AWS Community BuilderとしてAWS CDKのContributeや技術ブログの執筆を行っています。2024 AWS Ambassadorを受賞。



**y-ohgi @\_y\_ohgi (株式会社Topotal)**

株式会社TopotalでSREをやっております。

新卒として合同会社DMM.comに入社しCTO室でクラウドの活用方針・普及・技術支援など全般を携わらせて頂きました。その後、フリーランスとしてクラウドのスポットでの開発・技術支援・技術顧問などのお手伝いをやらせていただいています。  
2025 AWS Community Builder (Container)



**ムリギッテ @momitanJP**

パブリックセクターから金融機関、製造業まで様々な業界のお客様に向けたシステム提案・導入をしています。

最近はCDK、コンテナ、データ基盤がメイン。趣味はBlackbeltを聞きながら筋トレです。



ふくち @har1101mony

LLMを触って遊んだり、LLMを組み込んだシステムの開発をしています。  
AWS Community Builder(AI Engineering) / 2025 Japan AWS Jr.Champion

## 第4章

# JAWS-UG Sales支部とは？



JAWS-UG Sales支部は、AWSクラウドに関わる**営業職やマーケター向け**の勉強会コミュニティです。

2018年9月に大阪で発足し、「**エンジニアじゃなくても楽しめるJAWS-UG**があつてもいいんじゃないの？」という、ノリと発想から生まれました。

クラウド業界では年々 AWSを扱うソリューション営業が増え、営業職も最新情報のキャッチアップが欠かせません。

しかし通常のエンジニア向け勉強会はハードルが高く感じる営業職も多いでしょう。そこで**営業やビジネス職が気軽に集まり、仕事を楽しむための知見共有や交流ができる場**として、Sales支部が誕生したのです。

AWSの技術ネタだけでなく、日々の営業活動のTipや困りごとを持ち寄ってみんなで解決策を探る、アットホームな雰囲気のコミュニティです。

---

## 4.1 初心者でも楽しく参加できるポイント

JAWS-UG Sales支部最大の特徴は「**非エンジニアでも楽しめる**」ことです。

対象はクラウドに関わる営業・マーケ・カスタマーサクセス・プリセールス・サポートなど幅広く、技術スキルよりもビジネス視点を重視した内容になっています。

- **わかりやすいテーマ**

「営業目線で AWS Summit をどう感じたか」「顧客とのやりとりで役立つクラウド知識」など、実務に直結する話題が多く初心者も理解しやすい。

- **Fresh枠（新人LT枠）の存在**

「LT初挑戦の方、大歓迎！」という新人向けの登壇枠があり、安心して発表できる。

- **温かい応援ムード**

発表後は大きな拍手とコメントが飛び交い、初心者もチャレンジしやすい雰囲気。

さらに「学んだことが即仕事に活きる」のもSales支部ならではです。

AWS資格取得を通じて営業成績を伸ばした事例など、身近な成功体験が共有されています。

---

## 4.2 イベント内容と支部の雰囲気

Sales支部のイベントは**参加型・多彩**なのが特徴です。

- **LT大会**

営業・マーケ目線のネタで発表。「推し AWS サービス」や「お客様との AWS あるある」など。

- **提案コンペー仮想 RFP コンテスト**

提示されたお題に即興でチーム提案を披露。後日「振り返り会」で議論を深める徹底ぶり。

- **生成AIアイデアソン（予定）**

AWS 目黒オフィスでのオンライン開催。参加者同士でチームを組み、ぶっちゃけトークからアイデアを膨らませる。

---

## 4.3 おわりに – 初心者こそSales支部へ！

JAWS-UG Sales支部は、**初心者に優しく開かれたコミュニティ**です。

非エンジニアが主役になれる数少ない支部であり、明るくアットホームな雰囲気が魅力。

## 第4章 JAWS-UG Sales支部とは？

LT大会での小さな成功体験や、懇親会での出会いが、あなたのAWS活用を後押しします。

「営業がクラウドを学んで何が楽しいの？」と思う方こそ、一度参加してみてください。

**いつでも新しい仲間を歓迎しています。**

「営業が楽しむJAWS-UG」の一員として、一緒にAWSコミュニティを満喫してみませんか？

Connpassのページ：<https://jawsug-sales.connpass.com/>

---

### Sales支部運営メンバー



**ニシ サダオミ**

X : <https://x.com/sadabon444>

営業なのに、コミュニティとAWSを愛する変わり者。

2024年のJAWS DAYS参加をキッカケに、AWSにドップリとハマる。

無類の旅行好きで、JAWS-UG地方支部に行くことが最近の趣味。



**岡田 行司（オカダマン）**

Facebook : <https://www.facebook.com/koji.okada2>

2024年のre:InventでJAWS-UG Salesのリブートを決意。

お仕事ではカスタマーサクセス（CS）組織を2022年に立ち上げた。

好きな業務はクレーム対応。

## 第5章

# 転職にも良く効く CLI 専門支部

波田野 裕一 (tcsh)

CLI専門支部は、AWSの公式コマンドツールである"AWS CLI"でハンズオンを行う支部です。2014年7月に立ち上がった、JAWS-UG 初の専門支部であり、ハンズオンの開催回数はAWSコミュニティ内では世界最多(非公式: 2025年10月現在)となっています。

CLI専門支部のConnpassページ: <https://jawsug-cli.connpass.com/>

## 5.1 10年経っても陳腐化しない AWS 知識

AWS CLIは、AWSサービスの本体とも言えるAWS APIを直接操作することができるコマンドツールです。デザインが割とよそちゅう変わるマネジメントコンソール(通称:マネコン)に対して、APIは、機能が追加されることはあっても、操作方法が変わることはほぼありません。(自分のこの12年の記憶でも、比較的メジャーな破壊的変更は、Lambdaのリリース直後にロールの扱いが変わったのと、CloudFrontに必須パラメータが追加されたのくらいしかありません。)

つまり、一度AWS CLIで操作を覚えちゃうと、10年後もそのままその知識が使える、というとても美味しいメリットがあるのです。

更に、変更前と変更後に確認コマンドで、設定状態をAPIレベルで確認できるため、なにかのときに「戻し」をするのもさほど難しくはありません。(マネコンの正確な「戻し」ってどうやってやるんですかね? 「だいたいこんな感じ」には戻せると思いますが...)

個人的には、本番環境での作成(Create)、変更(Update)、削除(Delete)は、CLIやSDKなどのAPIベースでやるべきであり、「本番環境でGUI(マネコン)を使ってもいいのは中学生まで」というフレーズをよく使っていました。(今どきの高校生は、カード1枚あれば、がちでクラウド使えますからね...)



図1: GUIは中学生までかな

## 5.2 CLIでのAPI知識は転職によく効く（通称「JAWS-UG 転職支部」）

マネコンは知識が曖昧でも、雰囲気でなんとなく操作できてしまいますが、CLIでAPIを操作するには、そんな生温いレベルでは歯が立たず、API仕様を正確に理解しておく必要があります。

これが、実に転職には効果的で、約12年の活動(450回以上の開催、のべ14000人以上の参加者)からは、100名以上のクラウド転職者が誕生しています。CLI専門支部からのクラウド転職者は、あのブログの会社が一番多いのですが、目黒(2025年10月現在)のあのクラウドの会社の中の人として活躍されている方々もおられます。

おかげさまで、みなさんからは「AWS CLIで基礎が固まったのが大きかった」とおっしゃっていただけています。

## 5.3 CLI専門支部の最近の活動

ここ数年は、全てのAWS APIサービスの基礎ともなる、IAMを中心に解説とハンズオンを行っており、「IAMの全リソース、全アクション、全パラメータを扱う」ハンズオンをシリーズでやっていきます。

他ではなかなか聴けない、「公式なAPI仕様に忠実な技術解説」とともに、CLIハンズオンで実際にAPIをさわってみる。そんな経験を積んでみませんか？

2026年度からは、他のサービスにも手を伸ばしていきたいと思いますので、ご期待ください。

## 著者紹介

---

### 波田野 裕一 ( tcsh )

X: <https://x.com/tcsh>



AWS Hero: [Builder Center](#)

AWS Samurai 2017: [blogs](#)

AWS Samurai 2020: [blogs](#)

所属支部: [JAWS-UG CLI専門支部](#) / [JAWS-UG アーキテクチャ専門支部](#)  
/ [JAWS-UG 朝会](#)

JAWS-UG には JAWS Days 2014 が初参加(ぼっち)で、当時は会場に熱気に気押されて、懇親会にも参加せずにスゴスゴと帰りました。皆、最初はそんな思いをしているものです。コミュニティでのおすすめアクションは「こんな失敗しちゃいました」系の発表です。

## 第6章

# JAWS-UG 情シス支部とは？

山崎奈緒美(nao\_spon)

JAWS-UG 情シス支部は、AWSを自社内で利用している企業において統制・推進、内製開発を行う社内エンジニアのための勉強会コミュニティです。

JAWS-UG 情シス支部のページ：<https://jawsug-sysad.connpass.com/>

## 6.1 JAWS-UG 情シス支部が生まれたきっかけ

私自身が“情シス”としてAWSを利用していくにあたり、どのように導入を進めていくのか、予算や稟議、按分等の費用関係、AWS利用ポリシーの策定や監査対応などの内部統制、セキュリティガバナンス、運用管理、開発ベンダーへ依頼している場合はどのように進めていくのか・・・さまざまな悩みを抱えていました。

またこれらの悩みについて、自社のやり方で合っているのか、もっと良いやり方があるのではないか？

AWSのベストプラクティスはAWSのソリューションアーキテクトの方へ相談したらわかるものの、では実際の現場ではどうなんだろう？他社企業ではどのようにしているのだろう？という疑問もありました。

通常、普通に仕事をしていただけでは他の企業の同じような立場の方とお話をする機会は無いに等しい状況です。

それなら、みんなで議論する場を自分で作ろう！ということで2015年11月にJAWS-UG 情シス支部として発足しました。

## 6.2 こんな人におすすめ

- AWSを利用したサービスやシステムを利用するにあたり、社内でどのように利用するのか、利用促進・拡大をするには？といった社内SEとしての観点で議論したい人
- 自社内でAWSを実際に利用してみてわかったことなどの知見を共有したい人
- 自社システムやグレープ内のシステム担当であれば所属企業の種別は問いません。

- SIer、CIer、メーカー、システム子会社、ユーザ企業のいずれに所属されても、ひとり情シスでも兼務情シスの方でも現場部門の方でも参加可能です。

**ユーザー企業の情シス部門所属でないとダメと思われることもあるのですが、内製で自社サービスをAWS上で開発・構築・運用しているような方もOKです。**

ですが「お客様企業のシステムを作っている」方においては、社内統制や自社内での利用促進といった観点が異なるため、"Not for me" な内容かもしれません。

### 6.3 Before 2020, and after

2015年～2019年の間は目黒のAWSジャパンさんの会議室をお借りして、20名程度の人数で全員でその時のテーマについてフリーディスカッションをする方式をしていました。

例えば・・・

- 大規模障害をテーマにその時どうする・ユーザ企業の情報システム部門はどうした・どうすべきか
- AWSのIaC活用
- 自社内でのDaaS活用
- 社内でのAWS技術者の育成
- AWS上でのログ監査基盤やセキュリティ
- 予算と稟議

特定の技術要素がテーマの際には前半はAWSのSAさんによる説明や参加者の方による事例紹介などをし、そこからみんなでディスカッションをしていました。

ちなみに一番盛り上がったのは「予算と稟議について」です。

時間内では物足りない参加者が多数出て、懇親会でも盛り上りました。

そして2020年はコロナ禍により、オンラインでの開催をしていたのですがオンラインでのディスカッションではファシリテーションの難しさを感じ、あまり開催をできていませんでした。

また、私自身が東京から札幌へ移住したこともあり、以前のように気軽にAWSさんのお部屋を借りて・・・ということも難しくなってしまいました。

2025年は情シス支部が10周年を迎えるということもあり、また、自分自身が首都圏から地方都市へ移住し、地方企業でのAWS利用を自分自身も経験し、周りの方達から見聞きしたところから、こんな想いが出てきました。

- 地方企業の情シスの方々もAWSを利用しているけれど、なかなか情報交換できる場が無いのでは？
- 首都圏ではAWSの利用は割と一般的になつてきているものの、地方ではまだまだ悩んでいる情シスの方が多いのでは？
- 地方では首都圏の勉強会に参加するにも移動コストがかかり、気軽に参加しづらいのでは？

首都圏では毎日のようにAWS関連の勉強会が開催されていますが、地方ではそもそも開催頻度が少なく、同じ立場の方と出会う機会も限られています。だからこそ、地方でこそ情シス支部のような横のつながりを作る場が必要だと感じています。

## 6.4 それなら、地方で情シス支部をしよう！

ということで、2025年5月に札幌、同年9月に神戸で、それぞれ地元の支部とコラボレーションという形で勉強会を開催しました。

また、日程は未定ですが熊本や北九州でも開催を予定しています。

内容については前半は事例の紹介LT、後半はテーマをもとにしたチョークトークの形式をとっています。

チョークトークとは、いわゆるゼミの授業のような形式で、架空の企業の架空のシステムを対象にディスカッションテーマを決め、参加者のみなさんには手をあげて発言していただく形となります。

たとえば、過去の開催では以下のようなテーマで実施しました。

- テーマ：ECサイト運営をしている企業のシステムにおけるCloudWatchの利活用について
  - セール時の負荷対策として、どのような自動化を実装するか？
  - バッチ処理の異常検知で工夫している点
  - セキュリティインシデントの検知・対応で効果的だった施策
- テーマ：物流業企業におけるEoL対応について
  - 予算確保のためにEoL対応を「コスト」から「投資」へ視点転換する経営層への説明
  - EoL対応を実行するまでのシステム移行についてどのように移行計画を立てるか
  - 組織内のスキルアップ推進のためどのような施策をするか

皆様のお住まいの近くである時はぜひ来てくださいね！

## 6.5 おわりに

JAWS-UG 情シス支部では自社内で AWS を利用している情シス部門や内製開発部門、現場部門ならではの悩みの解決や知見の共有を目指して活動しています。

同じような立場だからこそ聞きたい、知りたいことがあるのではないかと思います。

初めての参加でも大丈夫です。チョークトークでは発言を強制することはできませんし、まずは聞くだけの参加でも全く問題ありません。「こんなこと聞いていいのかな？」と思うような素朴な疑問こそ、実は多くの方が抱えている共通の悩みだつたりします。

ぜひ一度、お気軽に参加してみてください！

---

### 情シス支部運営メンバー

---

#### 山崎奈緒美(nao\_spon)

X: [https://x.com/nao\\_spon](https://x.com/nao_spon)

AWS Samurai 2015: [blogs](#)



所属支部: [JAWS-UG 情シス支部](#) / [JAWS-UG アーキテクチャ専門支部](#)

ソフトハウスでインフラエンジニア→地図情報システム開発会社でひとり情シス→旅行会社の情シス部門でクラウド担当→

2020年9月に東京から札幌へ移住し、10月よりコープさっぽろへJOIN AWSのことならなんでも担当

#### 砂岡雪(白"雪姫")

X: [https://x.com/yuri\\_snowwhite](https://x.com/yuri_snowwhite)

所属支部: [JAWS-UG 情シス支部](#) / [JAWS-UG クラウド女子会](#)



小企業派遣社員でネットワークエンジニア→ソーシャルゲーム会社でインフラエンジニア→ベンチャー企業で情シス部門・インフラエンジニアを経て、同社のセキュリティエンジニア→現在は外資系企業のSREをメインにセキュリティエンジニアを兼任。

2025年からCommunity Builders

## 第7章

# JAWS-UG 新潟支部の紹介



JAWS-UG 新潟支部は、AWSを学びたい人、使ってみたい人、地域でつながりたい人が集まるコミュニティです。新潟を拠点に、「初心者も経験者も気軽に参加できる」雰囲気を大切に活動しており、定期的に「プチキヤッチャップ」やハンズオン、勉強会などを オンライン／オフラインの両面 で開催しています。

## 7.1 活動内容

### 7.1.1 プチキヤッチャップ

毎週木曜日 21:00～オンラインで行っているプチキヤッチャップでは、当日始まってからやることを決めています。

AWSに関する記事やアップデートの共有を参加者同士で話しながら、理解を深めることができます。

学習にあまり時間がかけられない方や、最新の動向をキヤッチャップしたい方なんかにおすすめです。

### 7.1.2 オフラインの勉強会

新潟支部ではオフラインのイベントも定期的に開催しています。

AWSのコンテナサービスや生成AIサービスのハンズオン、re:Inventの振り返りなど、さまざまなイベントを行なっています。

## 7.2 なぜ新潟支部？

新潟支部はオンライン/オフラインのハイブリッドな運営により、物理的に遠くても参加しやすい支部です。

新潟は東京のようにAWSイベントが頻繁に行われるわけではありませんが、だからこそ一人ひとりのつながりが強く、アットホームな雰囲気が特徴です。

初心者もベテランも関係なく、「話してみる」「聞いてみる」「一緒にやってみる」ことを楽しめるのが魅力です。

## 7.3 さいごに

新潟支部は、  
「AWSを通じて学び、共有し、地域を盛り上げる」ことを目指しています。  
勉強会に参加するだけでもOK、LTで発表してみるのもOK、運営として企画に関わるのも大歓迎です。

まずは気軽に、次のイベントから参加してみませんか？

## 新潟支部運営メンバー

---



**Hiroshi Kasahara**

X : <https://x.com/kasacchiful>

github : <https://github.com/kasacchiful>

新潟で Web、業務アプリ、インフラ等ととりあえずなんでもやるエンジニア。

**やくも**



X : [https://x.com/yakumo\\_0905](https://x.com/yakumo_0905)

github : <https://github.com/shinnosukeyakumo>

Qiita : [https://qiita.com/yakumo\\_09](https://qiita.com/yakumo_09)

Jr .Championの先輩の背中を追いかけていたら自分も AWS沼にどっぷりハマってしまいました。

2025 Japan AWS Jr.Champion



**カフェイン未摂取**

X : <https://x.com/kam1nchu>

github : <https://github.com/kaminchu>



**sakapun**

X : <https://x.com/sakapun>

新潟でシステム開発。得意領域は web アプリ。日本スピツツ飼っています。ポーカー、麻雀、アコギ（フィンガースタイル）あたりが2025年時点での趣味活動。お酒全般飲みます最近はウイスキーでグレンリベットが好きな基準に色々試し中

## 第8章

# Gov-JAWSの概要

Gov-JAWSは公共分野のクラウド利用に関するJAWS-UGの専門支部です。

政府のクラウド利用方針が示され、急速に公共分野でAWSの利用が進んでいます。中央省庁、地方公共団体をはじめとする公共分野のクラウド利用に興味・関心を持つエンジニア、行政関連組織の方々とAWSの知見やノウハウをオープンかつポジティブに共有する勉強会を開催していきます。

Gov-JAWSのConnpassページ: <https://gov-jaws.connpass.com/>

## 8.1 なぜ公共でクラウドなのか？

公共におけるクラウド利用の背景にはいわゆる2040年問題があります。

現在も進行中の急速な少子高齢化により、2040年には官民ともに労働人口が半減すると言われています。つまり、今の半分の職員数で行政サービスを維持しなければならないということです。

その一方で、社会制度は複雑化していきます。

少ない職員数で世の中の状況の変化に対応してシステムを柔軟・迅速に構築・変更し、効率的に良質な住民サービスを提供し、かつ保有する住民情報を強固に守らねばなりません。

そのためにはクラウドを上手に、スマートに利用していくことが必須です。

公共分野でクラウドを適切に利用していくけば、行政サービスが向上するとともに税金の無駄遣いが減少し、社会が良くなっていくのです。

## 8.2 公共分野の専門支部が必要な理由

公共におけるクラウド利用は2009年ごろから検討が始まりましたが、いわゆる「ガバメントクラウド」として積極的にパブリッククラウドを利用し始めたのは比較的最近のことです。

政府の「クラウドスマート」の方針が定まり、政府機関のみならず地方公共団体がガバメントクラウドを利用可能となったのが2022年。独立行政法人等を含めた全ての公共情報システムに拡大されたのが2024年です。

なお、Gov-JAWSが取り扱う範囲はガバメントクラウドAWSに限ったものではありませんが、実態として公共のクラウド利用はガバメントクラウドが多く、またガバメントクラウド利用の約9割がAWSであることから避けては通れません。

そして、ガバメントクラウドにおけるAWS利用については、通常のAWS利用には無い要件や制約があります。

例えば、ガバメントクラウドにおいては機微な住民情報を取り扱うことが多いことから、利用できるリージョンは国内に限定されます。 AWS Outpostsなど、一部のサービスは利用できません。 ガバメントクラウドを利用する団体は、AWSではなくデジタル庁と契約する関係上、有償のMarketplaceは利用できません。

ガバメントクラウドAWSはそれ1つが巨大なOrganizationsで運用しているため、利用団体側でAWS OrganizationsやAWS Control Towerは利用できません。 Payerアカウント特有の機能も利用できません。

ガバメントクラウド上のシステムやAWSアカウントはGCAS（ジーキャス）というオンボーディングツール上で管理されます。 GCASはガバメントクラウド専用IdPとしても機能し、各アカウントにおいてはGCASからのSSOユーザーを利用します。 IAMユーザーは利用禁止です。

地方公共団体での利用の場合は更に複雑です。

マイナンバーを取り扱うケースが多いため、利用は原則専用線接続サービス(AWS Direct Connect)経由となり、かつ「三層分離の対策」を実施する必要があります。 また複数団体での共同利用が推奨され、そのための各種スキームがあります。

これらの理由から、ガバメントクラウドにおいては一般的なAWSのベストプラクティスが適用できず、独自の対応が必要な場合が多くあります。 かつ利用してから年数も浅いため、そのためのノウハウも蓄積されておりません。 全国に公共に携わるエンジニアや自治体職員が同じような課題で頭を悩ましています。

公共のクラウド利用に特化した知見を共有する場が必要とされているのです。 これが、私たちがGov-JAWSを設立した理由です。

### 8.3 Gov-JAWSが目指すもの

Gov-JAWSは「オープン」と「ポジティブ」をコンセプトとしています。

公共分野のクラウド利用の専門支部ではありますが、参加者は公共関係者に限定するものではありません。

様々な立場の者が参加する事で、多様な視点のノウハウが可能になり、より良いアイディアや解決策が生まれます。

公共のクラウドに興味がある方が集まり、ノウハウを気軽に共有してポジティブに意見交換ができる場を作りたいと考えています。

## 8.4 Gov-JAWSの運営

事業者メンバーと公務員メンバーが一緒に運営しているのが特徴です。なお公務員メンバーはその特性上、協力メンバーという位置づけにしています。

## 8.5 勉強会について

勉強会は主に次のテーマを扱います。

- 公共分野のAWS動向
- 公共分野のAWSアップデート
- 公共分野のAWS事例紹介
- 公共分野ならではの要件への対応、開発、運用関連トピック（例：ネットワーク、セキュリティ関連の各種レギュレーションに対する対応など）

なお、デジタル庁が非公開情報としているものは取り扱いません。

専門支部であるためオンライン開催が多いですが、公共関係者が集まるイベントと合わせてオフライン／オンラインのハイブリッド開催をする場合もあります。

公共という特性上、他の地域支部や専門支部との合同開催にも適していると思います。（他支部からのコラボ申出もお待ちしております！）

公共分野に興味がある方は是非ご参加ください！

## 8.6 勉強会開催実績

### 8.6.1 【コラボ企画】 NW-JAWS 公共スペシャル with Gov-JAWS[仮]

- 2025/02/14 開催、オンライン
- JAWS-UG ネットワーク専門支部「NW-JAWS」とのコラボイベント
- 参加者 694 人

### **8.6.2 Gov-JAWS#1～中央省庁/自治体のAWS移行事例～**

- 2025/04/24開催、オンライン
- 参加者470人

### **8.6.3 Gov-JAWS#2**

- 2025/06/17開催、ハイブリッド（AWS目黒オフィス）
- 参加者325人

### **8.6.4 Gov-JAWS#3**

- 2025/08/20開催、オンライン
- 参加者334人

### **8.6.5 Gov-JAWS#4**

- 2025/10/31開催、ハイブリッド（AWS大阪オフィス）
- 参加者244人

## 第9章

# NW-JAWSのススメ

Shota Shiratori(@whitebird\_sp)

NW-JAWSの紹介をさせていただきます。

<https://jawsug-nw.connpass.com/>

### 9.1 NW-JAWSとは



AWS利用がエンタープライズ企業へ広がっていくころ、オンプレミスとクラウドの接続に悩むエンジニアさんや通信キャリア、データセンターの事業者さん、ネットワーク機器メーカーなどの方を交え、2016年に第1回の勉強会を行いました。当時はNTTとKDDIという2大キャリアの社員が運営にかかわっていたことで大きな話題を呼びました。その後、ラスベガスでの現地開催、コロナ禍でのオンライン開催へのシフトを行っていく中でAWSネイティブな方が増え、AWSのことはよく知っていても逆にネットワークのことを知りたいという方が増えてきました。2023年からシーズン2として初心者向けにシフトし、3か月に一度程度の頻度でオンラインの勉強会を中心を開催しております。

#### 9.1.1 こんな方々を対象にしております

- AWSに取り組む中で、ネットワークに悩みを抱えているエンジニアさん
- AWSと接続しているデータセンターさん
- 通信キャリア・ネットワーク機器ベンダーさん

### 9.1.2 勉強会のフォーマット

NW-JAWSの勉強会は下記の形式で進めています！

- ・昼開催オンライン：初心者向けコンテンツ（Lv.100-200相当）
- ・夜開催オンライン：中級～上級者向けコンテンツ（Lv.300-500相当）
- ・オフライン：交流やハンズオン、チョークトークがメイン

## 9.2 初心者向けにおすすめポイント

**昼開催オンライン回が特におすすめです！**

昼開催のオンライン回は、運営メンバーを中心にサービスカットでの初級解説（Amazon VPCとは？）だけではなく、「ネットワークはなぜつながるか？」というようなネットワークの基礎から解説していくため、AWSの初心者だけではなくて、ネットワークの初心者にもやさしいコンテンツになっています。

また、登壇枠に若手枠を設けており、社会人歴の浅い方や初めての登壇でも登壇のしやすい設計となっておりますので、お気軽に応募していただければと思います。

## 9.3 NW-JAWSの特有のワード紹介

NW-JAWSを象徴する特有のワードを一つご紹介させていただきます。

### 9.3.1 体育座り

オンラインの勉強会でも時折『体育座り』というワードが出てきます。この語源は過去にラスベガスで開催されたNW-JAWSにおいて、なんと部屋のキャパシティを大幅に超える申し込みがあり、椅子が足りないどころか部屋中に体育座りでもギリギリ…という開催となった回がありました。当時は運営メンバーではありませんでしたが、最前列で体育座りでセッションを聞き、3時間弱座り通しの勉強会だったことを今でも覚えています。

## 9.4 さいごに

NW-JAWSは専門支部ながら、AWS×ネットワークの初心者だけではなく企業や自治体の情シスさんをはじめ非常に多彩な方の参加で成り立っています。専門支部らしく上級回もありますが、まずは**昼開催オンライン回**にご参加いただき、ネットワークの基礎と登壇経験を身に着けてグローバルに羽ばたいていっていただければと思います！

### NW-JAWS運営メンバー

---



**白鳥 翔太 @whitebird\_sp (NTT東日本 : AWS Ambassador/ネクストモード)**

2009年入社。

2018年よりクラウドサービス開発業務に携わる。

2023年より NTTグループに新設されたスペシャリストグレードの社員一期生となる。

2025年11月からネクストモード株式会社へ出向

2024-2025 AWS Ambassadors/2020-2025 Japan AWS Top Engineers/2023-2025 Japan AWS All Certifications Engineers

好きな言葉は「Knowledge is power.」「Insist on the highest standards.」「Any sufficiently advanced technology is indistinguishable from magic.」



**矢儀 文博 @yuki\_ink (TIS株式会社)**

TIS株式会社に2020年に新卒入社。金融業界のお客様のインフラを担当しています。2023 AWS Jr. Champions / 2024-2025 Japan AWS Top Engineers (Services) / 2024-2025 Japan AWS All Certifications Engineers



**Hibiki @gravitas122**

SIErに2023年新卒入社。マルチアカウント、NW、IaCが好きです。2025 Japan AWS Jr. Champions/ 2025 Japan All AWS Certifications Engineers



**Takumi Sato**

通信企業に21年度入社。入社当初は公共系のお客様のインフラ担当。現在はAWS環境の運用保守を実施している。また新入社員200名に対してクラウド研修の講師なども担当。好きなサービス : AWS SecurityHub

# 第10章

## IoT専門支部

立石 彰

### 10.1 IoT専門支部って？



IoT専門支部は、その名の通り IoT 関連の話題を専門に扱う JAWS-UG の支部です。では「IoT」って何でしょうか？

IoTの歴史はとても古く、その基盤の一つであるセンシング技術は電子回路の登場と共に生まれ、発展してきました。また IoT の要とも言えるインターネットにおいても、早い時期から「モノ」との接続が強く意識されていました。有名な「トロイの部屋のコーヒーポット」<sup>1</sup>は1993年にインターネットに接続されており、1998年4月にはコーヒーポットとの通信を定義するプロトコル "HTCPCP" (Hyper Text Coffee Pot Control Protocol) の実装が提案<sup>2</sup>されているほどです。

IoT専門支部はその流れを汲み、センシングから通信、クラウドやデータ可視化など、IoTに関する幅広い技術分野を取り扱う異色の専門支部です。JAWS-UGの一部として活動していることから、少なくとも話題の一部には AWS が関係していることを意識して話題の選定を行っています。そこが他の IoT 関係コミュニティとは異なる点でしょうか。

### 10.2 IoT専門支部の歴史

AWS IoTは10年前、2015年10月8日に誕生しました。IoT専門支部では10周年を記念して2025年10月8日にこれまでの歩みを振り返るイベントを開催<sup>3</sup>しています。イベントの模様は[アーカイブ](#)が公開されていますので、是非ご覧ください。

実はIoT専門支部の歴史はAWS IoTの誕生よりも前のことでの、記念すべき最初のイベント「もくもく IoT カフェ」は2015年6月23日<sup>4</sup>に開催されました。これは AWS IoT誕生の3ヶ月以上前のことでの、AWS IoTを支える技術の多くが普及する前のことでした。通信環境や開発環境も、今から思えば驚くほど貧弱なもので、そんな中でも IoT の普及を図ろうとする当時の JAWS メンバーの強い想いに支えられた門出となりました。

イベントで用いられたのは intel が IoT デバイスとして鳴り物入りでリリースした「Edison」<sup>5</sup>でしたが、巨人 intel であってもこの市場の攻略は困難でした。先発の Arduino<sup>6</sup> や Raspberry Pi<sup>7</sup> に対抗することはできず、2017年に製造終了となってしまいました。

### 10.3 IoT 専門支部の今後

IoT 専門支部も、同様に時代の波に押されて幾度かの低空飛行を経つつ、現在に至りました。

Edison の撤退に象徴されるハードウェアの急速な進化に加え、AWS IoTにおいてもサービスの改称や再編、技術の進歩に対応するためのアップデート、逆に必要性が低下したサービスの廃止などが行われてきました。IoT にとっての血液とも言える通信環境についても日々進化が続いているです。

産業全体を見ると、「IoT」という考え方や概念は広く理解されるようになり、結果として「IoT」そのものが注目を浴びることは少なくなっていました。言い換えると、世の中のほとんど全てが **IoT を前提として** 構築される世の中になってきています。つまり、分野を問わない全ての技術者が IoT を理解しなければならない、IoT を理解してから全てが始まる、という世の中が到来しようとしています。

とても重要だが、目立たず、変化が早い。それが現在の「IoT」技術です。IoT 専門支部では、このような外部環境の変化に対応しつつ、また生成 AI のような新しい技術も視野に入れながら、初心者には気軽に楽しめる入り口を、初級者にはレベルアップを目指すきっかけを、そして中級者・上級者には更なる高みを目指すお手伝いを続けていきます。

### 10.4 さいごに

IoT 専門支部では、地方支部や他の技術専門支部とのコラボレーションを強化する活動を開始しました。IoT 専門支部と一緒にイベントを企画・開催してくださる支部や個人の方、ぜひお声掛けください。またイベントについては用意でき次第

connpassに掲載、参加者募集が行われます。多くはオンライン・オフラインのハイブリッド開催となっておりますので、ご都合のよろしい方法で奮ってご参加ください。

ご興味のある方はぜひ Facebookのグループ JAWS-UG専門支部 や connpassイベントページ にご参加、ご登録ください！

#### 著者紹介

---

##### 立石 彰 ( TATEISHI, Akira )

X : [https://x.com/greennote\\_akira](https://x.com/greennote_akira)



Qiita : <https://qiita.com/akira-greennote>

Facebook : <https://www.facebook.com/akira.ignote>

AWS Builder Center:

<https://builder.aws.com/community/@akiratat>

所属 : JAWS-UG IoT 専門支部

2020~ AWS Community Builder (Serverless)

今力を入れてること：本業（零細企業の何でも屋 兼 経営者なので……）

すきなもの：AWS IoT / CDK / CLI / オリックス・バファローズ

- 
1. <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%88%E3%83%AD%E3%82%A4%E3%81%AE%E9%83%A8%E5%B1%8B%E3%81%AE%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%92%E3%83%BC%E3%83%9D%E3%83%83%E3%83%88>
  2. <https://www.rfc-editor.org/rfc/rfc2324>
  3. <https://jawsug-iot.connpass.com/event/367418/>
  4. <https://jawsug-iot.connpass.com/event/16452/>
  5. <https://www.intel.co.jp/content/www/jp/ja/products/sku/84572/intel-edison-compute-module-iot/specifications.html>
  6. <https://blog.arduino.cc/2021/12/09/one-board-to-rule-them-all-history-of-the-arduino-uno/>
  7. <https://www.raspberrypi.org/about/>

## 第11章

# 社会人一年目がオススメするJAWS-UG DE&I 支部

山本 瞳巳（タレカツ）と申します

今年の四月に社会人になってから、様々なJAWS-UGのイベントに参加してきました。

そんな社会人一年目の私が、誰にでも、特に初心者の方にもオススメしたいJAWS-UG DE&I支部を、僭越ながら紹介させていただきます。

## 11.1 DE&I支部とは

DE&Iとは、多様性・公平性・包括性の英語の頭文字をとった言葉です。

多様性を重視し、性別や人種・思考に関わらず、誰もがみんなで共存・尊重し合うといった点を掲げて活動されおり、みんなが平等で同じ目線で学べる場を提供されています。

また、元々はJAWS-UG関西女子会として活動されていたため、運営は女性の方が多いです。

そのため、なかなかコミュニティに参加しづらいと考えている女性の方でも参加しやすいのではと思います。

大阪を中心に活動されており、基本的にみんなが気軽に参加できるようなイベントを開催されています。

## 11.2 どういったイベントがあるのか

DE&I支部では基本的にLTがメインではなく、他の取り組みをされていることが多いです。

これまで私がDE&I支部で参加したイベントを紹介します！（下記のイベントの最後に、数枠ですがLTの時間もありました）

### 11.2.1 ハンズオン

ハンズオンでは一人で進めるのではなく、みんなで一緒に取り組む雰囲気が特徴的です。

参加者同士で話し合えるような雰囲気があり、困ったことがあってもすぐに周りに聞けるため、一人でやるよりみんなで勉強したい方や、AWS触り始めの初心者の方におすすめです。

私も参加したときは、周りの人に困ったことがあった際に相談しながら進めました！

### 11.2.2 スキルパーティー

スキルパーティーは数人でAWS認定の試験問題を解くことを行います。

選択肢がなぜ正解なのか、不正解の選択肢がなぜ間違いなのか、数人で話し合いながら進めることで、ただ解くだけではなく本質的な理解に繋がります。

特に現在資格試験の勉強をしている方にオススメです。資格試験に着目した回なので、一緒に解いている方に現在試験勉強で困っていることがあった場合も相談しやすいと思います！

## 11.3 オススメポイント

### 11.3.1 みんなで一緒に行イベント！

イベントの部分でも書きましたが、DE&I支部ではみんなで一緒に取り組むイベント内容になっています。

勉強会の中でも周りの人たちと数人で進めたり、みんなで一緒に行うようなイベントのため、勉強会の最中に自然と交流を深めることができるのではないかと思うか！

### 11.3.2 自己紹介タイム

DE&I支部では、全員に対する自己紹介の時間が最初にあります。交流のないところから他の参加者と話すのは難しいかもしれないですが、自己紹介があることで話題も作りやすいと思います！

初対面でも周りの人と交流しやすい様な取り組みは、とてもありがたかったです！

## 11.4 さいごに

私が初参加した支部で、ここまで JAWS-UG に没頭するきっかけとなった支部です！

ぜひ大阪で AWS コミュニティのイベント参加を検討されているなら、足を運んでみることをオススメします！

### 著者紹介

---



山本 瞳巳（タレカツ）

X : [https://x.com/tarekatsu\\_eng](https://x.com/tarekatsu_eng)

Qiita : [https://qiita.com/tarekatsu\\_eng](https://qiita.com/tarekatsu_eng)

この半年間で 20 以上のイベントに参加してきましたが、どの支部も勉強になり楽しめるイベントが開催されています！

AWS に興味のある方はぜひ JAWS の勉強会に参加してみることをオススメします。

## 第12章

# JAWS-UG 横浜支部で人生初のLT登壇を経験して

深津 新太郎 (@shin\_fukatsu)

今ではいろいろな支部のイベントに参加して、登壇もさせていただいている私ですが、そのきっかけをいただいたJAWS-UG横浜支部に御礼の意味も込めて紹介レポートを書かせていただきます。

JAWS-UG横浜支部 <https://jawsug-yokohama.connpass.com/>

### 12.1 初めての登壇までの道のり

オフラインイベントに参加しても、一人で参加していて誰かとなかなか話せない、参加していて一人だとどうしようと不安になることがありますよね。私もコミュニケーションを上手に取れる人間ではないので、いつも不安に感じていました。

一方でコミュニティという場で会社の垣根を超えて人と人が繋がっているのを見て、とてもいいな、自分も入りたいなと感じていました。でも自分から話しかけるのもきっかけをどうしようか、自分から話しかけにいくのが難しければ、きっかけを作って話しかけてもらおうのが良いのではないか。きっかけは・・・よし、試しにLT登壇してみよう！と思いついたところから始まりました。

当時、re:Inventという年に一度ラスベガスで開催される大規模なAWSカンファレンスに参加する予定だったので、帰国後に現地で学んだことを話せば、イベントに参加している方々に気に止めてもらえるのでは？と思い、私は人生初のLT登壇の申し込み先を探しました。スケジュール等を考えて、最終的に選んだ場所が、JAWS-UG横浜支部で開催された「AWS re:Invent 2024 宇宙一早い re:Cap」というイベントです。

帰国翌日の夜に開催されるということで、名前の通り「宇宙一早い re:Cap」です。移動中の飛行機の中で必死に登壇資料を作成していたことを今でも鮮明に覚えています。時差ボケと疲労の中での資料作成は大変でしたが、re:Inventで得た新鮮な情報を早く共有したら、どういった反応が返ってくるだろうかというワクワクした気持ちが私を突き動かしていました。

5分というとても短い時間でしたが、私にとってはとても価値のある重要な5分間でした。登壇後、懇親会で色々な方からお声掛けをいただきました。共感を得た部分についてお話をいただいたり、実際どうでしたか？といった現地での反応について質問をしてくださる方もいて、登壇して良かったと改めて感じました。

## 12.2 10年の歴史を持つコミュニティの温かさ

JAWS-UG横浜支部は10年以上の長い歴史を持つコミュニティです。そんな歴史あるコミュニティが、新参者である私のLTを温かく受け入れてくれたことに感謝しかありません。ちなみに、私は横浜とは全く縁がありません。仕事も地元も、住んだこともない土地です。それでも個人参加で飛び込んだ私を迎えてくれました。会社の同僚がいるわけでもない、完全にぼっち参加でしたが、全く孤独感を感じることはませんでした。

## 12.3 素晴らしい開催環境

当日の会場はヤマハ発動機さんのYAMAHA MOTOR Regenerative Lab（リジェラボ）という共創スペースをお借りしており、とても綺麗でおしゃれな空間でした。こういった他社のイベントスペースを訪問できるのも、コミュニティ活動ならではの魅力だと感じました。普段は入ることのできない企業の施設を見学できるのは、技術者として非常に刺激的な体験にもなりました。

## 12.4 繙続的な学びの場

JAWS-UG横浜支部では、LTイベントだけでなく、積極的にハンズオン会も開催されています。実際に手を動かして学べる機会が豊富に用意されているのは、技術力向上を目指す参加者にとって非常に価値のあることです。私自身、初回のLT登壇後も何度か参加させていただいている。一度参加すると、その居心地の良さと学びの多さに魅力を感じ、自然と足が向くようになりました。

また、この経験を通してコミュニティ運営に携わりたいなと思い、居住地である埼玉県でJAWS-UG彩の国埼玉の立ち上げの際に参画させていただくことになりました。

## 12.5 初心者の方へのメッセージ

これから JAWS-UG に参加を検討している初心者の方には、まずは顔を出してオフラインで参加し、雰囲気を感じてみることをお勧めします。無理に登壇からスタートする必要は全くありません。また、ぼっち参加になることを心配する必要もありません。他にもきっと一人で参加している人はいますし、コミュニティの皆さんのが温かく迎えてくれます。私自身がその証拠です。

技術コミュニティは、学びたい気持ちさえあれば誰でも歓迎してくれる場所です。JAWS-UG 横浜支部での経験は、私のエンジニア人生において大きな転換点となりました。皆さんもぜひ、勇気を出して一步踏み出してみてください。

### 著者紹介

---



深津 新太郎

X : [@shin\\_fukatsu](https://twitter.com/@shin_fukatsu)

Qiita : [@sh\\_fk2](https://qiita.com/@sh_fk2)

JAWS-UG 彩の国埼玉支部運営

AWS Community Builders 2025 (Cloud Operations)

AWS Certifications x 15

現在はオンプレシステム更改のPMを担当

re:Invent 2022-2025 参戦

## 第13章

# 歴史を知る機会になる！ Storage支部

高野(石原晶子)

初めてオフライン支部で参加した Storage 支部の紹介をさせていただきます。  
Storage 支部の Connpass ページ：<https://storage-jaws.connpass.com/>

### 13.1 Storage 支部とは？

Storage 支部とは、 AWS 上で「ストレージ」を活用するための議論や情報発信をしていくコミュニティです。 EBS や EFS を始めとした OS 領域に関係するサービス、 S3 のような大容量ファイル置き場、 StorageGateway 、 AWS BackUp などの運用に便利な関連サービスなど、 Storage ONLY ではなく、関連サービスも含め幅は多岐にわたります。つまり実は色々な支部と相性が良いです。

2025 年は私が運営している初心者支部をはじめ、コンテナ支部、 BigData 支部とコラボされています。

### 13.2 歴史に思いを馳せることができる

最初に General Availability (GA) したサービスである S3 を歴史に持つ関係か、「 S3 の Update 歴史」や「 EFS の Update 歴史」など、歴史を振り返る LT 登壇が結構ある印象です。私は Storage 支部に参加するまで、 S3 の誕生日など知る余地もありませんでした。過去を知るとそのサービスの深み？を知ることができた気になって、すごく楽しいです！

「 FSx for OpenZFS 」というサービスで Solaris OS という懐かしの名前を聞くことができたり、懇親会では VM やテープディスク、オンプレ運用について話せたり、オンプレ運用民にとってはすごく敷居が低い支部だと思います。

### 13.3 専門支部、怖くなかった！

初めてオフライン参加、しかも専門支部でいきなり登壇をしたのですが(#3 参照)、その時の登壇ネタはなんと、「 Storage 有識者に教えてもらいたい！ こういう悩みがあるのですが教えてください 」でした。傾向を考えずにいきなり参加者の力に頼るという……今考えても酷い気がする登壇ですが、強つよ Storage/AWS に關

する有識者がいらっしゃったおかげで、より良い案を持ち帰ることができ、のちにシステム検討をよりよく進めることができました。JAWSにハマるきっかけになった支部参加でした。

その節は登壇快諾をいただきましたhirosys師匠、藤原さん、ありがとうございました。

皆さんも専門支部、教えて欲しい！という気持ちで飛び込んでみると楽しいかもしませんよ！飛び込んで教えてもらいましょう！（教えてくれLT登壇の際は念のため許可は貰いましょう！）

#### 著者紹介

---

##### 高野（石原晶子）



X : <https://x.com/takano0131>

Qiita : <https://qiita.com/takano0131>

所属 : [JAWS-UG 初心者支部](#)

2025 AWS All Certifications Engineer

すきなもの：Transit Gateway フローログ、同人誌書くこと

## 第14章

# 私のコミュニティ活動とEducation-JAWS

奥田 雅基（モブエンジニア）

初めましての方もお久しぶりの方もこんにちは。モブエンジニアと申します。

今でこそコミュニティへ頻繁に出没している私ですが、2024年まではLT登壇はおろかコミュニティ活動への参加も全く行っていませんでした。そんな私のコミュニティ活動のスタート、原点が実は **Education-JAWS** のことです。今回は参加レポート形式で **Education-JAWS** について紹介したいと思います。

Education-JAWS:<https://education-jaws.connpass.com/>

## 14.1 登壇したきっかけ

登壇したきっかけは**面白そ�だったから**という一言に尽きますが、当時を思い出すと「社外のエンジニアとつながりを持ちたかった」という想いから参加していたと思います。当時、私はエンジニア職ではなく人事担当として社内教育推進の役割を担っていました。今思えば、その時の経験は今も息づいていると思っています。

そんな中、**教育×AWS**新しい切り口のAWSコミュニティが発足することをXで知り、**私のキャリアを話す場としてはうってつけ**と考え、2024/11/21に開催した **Education-JAWS #0 ~Welcome Students!~**にLT登壇で応募しました。

## 14.2 初心者にも温かいコミュニティ

当時を振り返ると「たどたどしい発表」「技術要素が少ない」というお世辞にも良い発表とは言えなかつたと思います。そんな私の発表から**初登壇すごく良いや AWS からキャリアを考える視点がGood**といった温かいコメントを頂くことが出来ました。その時の経験から、今の自分があるのだと考えています。また、同じ回でも学生の方がAWSを活用して自作アプリを実装した経験、AWSを通じてキャッチアップしたことを紹介されていたので私自身も**社会人として頑張っていかないといけない**と思いました。

## 14.3 Education-JAWSは将来の技術者を育てる場

Education-JAWSの特性上、EdTech・学内教育事例に関するテーマの登壇が多いです。また、社会人だけでなく学生がAWSを通じてチャレンジしたことの発表も多くあります。私個人として**将来の技術者を育てる場**の印象を強く持っています。若手の活躍を見てモチベーションを高めていきたい方には、ぜひ参加してもらいたいと思っています。私自身も人事担当として多くのエンジニアを育てていくという役割を担っていたので、Education-JAWSに対して親近感を頂いています。

## 14.4 さいごに

本記事を読んで興味を持った方はぜひ参加してみてください！！多くの若手がJAWSを通じて成長していくのを応援しています！！

### 著者紹介

---



奥田 雅基（モブエンジニア）

X : [@mob\\_engineer](https://twitter.com/mob_engineer)

Qiita : [https://qiita.com/mob\\_engineer](https://qiita.com/mob_engineer)

所属 : [JAWS-UG彩の国埼玉支部](#)

ごくごく一般的なエンジニア。コミュニティ界隈でモゾモゾしながら社外発信することを生きがいとしている。コミュニティ活動がきっかけで、最近APN所属企業に転職した。AWS12冠。

## 第15章

# 実践的なTipsが盛りだくさん！ JAWS-UG CDK支部のすすめ

アキキー | 池田 晃尚(@akikii\_\_)

AWS CDKを初めて扱ったとき、その設計思想に感銘を受けた一方で、少し使いづらさも感じていました。AWS CDKの専門支部「JAWS-UG CDK支部」<sup>1</sup>に参加し、たくさんの開発に役立つTipsや仕組みを学んだことで、より AWS CDKの魅力に惹かれるようになりました。

そんなAWS CDKを盛り上げるイベントを数多く開催しているCDK支部について紹介させていただきます！

## 15.1 AWS CDKとは？

JAWS-UG CDK支部を語る前に、AWS CDKについて紹介します。

AWS CDKは、AWSが提供するIaCサービスの1つです。<sup>2</sup>

IaC(Infrastructure as Code)とは、サーバーやネットワークなどのITインフラをコードで定義し、リソースの作成や設定変更を管理する仕組みです。AWS CDKでは、AWSサービスの設定をTypeScriptやPythonなどのプログラミング言語で定義します。プログラミング言語の恩恵を受けることで、より柔軟・効率的にAWSサービスを構築できます。

AWS CDKはAWSが管理しているプロジェクトですが、OSSであることも特徴のひとつです。ソースコードが公開されていて<sup>3</sup>、誰でも機能追加のリクエストや機能の実装ができます。

## 15.2 どんなイベントをやってるの？

### 15.2.1 LT会

AWS CDKに関することなら何でもOKなLT会を開催していることが多いです。例えば、AWS CDKのTipsや初めて使ってみた感想、OSS活動などのトピックが話されています。

LT会はテーマを設けて開催されることもあります。AWS CDKはAWSの特定の技術分野によらないサービスなので、過去のテーマでは生成AI<sup>4</sup>やマネジメントコンソールとの比較<sup>5</sup>、はたまた別のJAWS-UG支部であるOps-JAWSともコラボした実績<sup>6</sup>もあります。

### 15.2.2 AWS CDK Conferenceについて

AWS CDKのカンファレンスであるAWS CDK Conference(以下、CDK Conf)が2022年から毎年開催されています。AWS CDKに情熱を捧げるスピーカーによる最新動向やベストプラクティスを共有するセッションが次から次へと繰り広げられます。

2025年のCDK Confでは他にもさまざまなサブイベントがあり、どれも賑わっていました。

- 初心者ワークショップ<sup>7</sup>
- CDKコントリビュートワークショップ<sup>8</sup>
- Amplifyワークショップ<sup>9</sup>
- CDK Vibe Coding Fes!!<sup>10</sup>

実は、AWS CDK関連の年次カンファレンスで毎年続いているのは世界を見ても日本のCDK Confだけです。世界一熱狂的！？なAWS CDKのイベントと言っても過言ではないのでしょうか？？

## 15.3 おすすめLT/セッション

これまでCDK支部では、たくさんのLTやセッションが繰り広げられてきました。その中でも、CDK支部に参加したことがない方にもおすすめしたいものをピックアップしました！

- AWS CDK 入門ガイド - これだけは知っておきたいヒント集<sup>11</sup>

(@anan\_kikuchi)

CDKを使った開発に必要な知識が網羅できます！次に読むべきリンクも載っているので、読み込めばCDKマスター間違いなし！？

- **保守性を高める AWS CDK のセオリー・ベストプラクティス<sup>12</sup>**

(@ren\_yamanashi)

CDKを長く使うと困ってくる保守性を高めるベストプラクティスがまとまっています！仕組みを知らないと思いつかないようなプラクティスがたくさんあります。

- **AIエージェントが書くのなら直接CloudFormationを書かせればいいじゃないですか何故AWS CDKを使う必要があるのさ<sup>13</sup>** (@\_watany)

AIコーディング時代にAWS CDKを扱うことのメリットや、AIでCDKをどのように扱うべきかがわかりやすくまとまっています！

- **AWS CDKの仕組み<sup>14</sup>** (@365\_step\_tech)

CDKが動いている仕組みを実装の詳細まで踏み込んで解説されています！CDKにDeep Diveしたい人は必見です。

## 15.4 さいごに

僕はCDK支部に参加して、自分では思い付かないような実用的なTipsにたくさん出会えました。

AWS CDKはどなたにでも扉を開いています。みなさんもJAWS-UG CDK支部に参加して、AWS CDKに入門・実用的なTipsを持ち帰る・自分の中に眠っているTipsを放流してみませんか？

共にAWS CDKを盛り上げていきましょう！

### 著者紹介



アキキー | 池田晃尚

X : <https://x.com/akikii>

2025 Japan All AWS Certifications Engineers

好きなもの： JAWS-UG、コーヒー、クラフトコーラ

AWS CDKが好きすぎてCDK転職（?）を果たしました。

---

1. JAWS-UG CDK支部のConnpassページ : <https://jawsug-cdk.connpass.com/>
2. AWS CDK とは :  
[https://docs.aws.amazon.com/ja\\_jp/cdk/v2/guide/home.html](https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/cdk/v2/guide/home.html)
3. AWS CDK GitHub リポジトリ : <https://github.com/aws/aws-cdk>
4. JAWS-UG CDK支部 #15 生成AI祭り : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/324263/>
5. JAWS-UG CDK支部 #20 マネコン支部!? VS CDK支部 : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/348953/>
6. CDK支部 and Ops-JAWS コラボイベント！！！ : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/356559/>
7. 初心者ワークショップ : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/356361/>
8. CDKコントリビュートワークショップ : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/356362/>
9. Amplifyワークショップ : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/356363/>
10. CDK Vibe Coding Fes!! : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/356357/>
11. AWS CDK 入門ガイド - これだけは知っておきたいヒント集 :  
<https://speakerdeck.com/anank/aws-cdk-introduction>
12. 保守性を高める AWS CDK のセオリー・ベストプラクティス:  
[https://speakerdeck.com/yamanashi\\_ren01/bao-shou-xing-wogao-meru-aws-cdk-noseoribesutopurakuteisu](https://speakerdeck.com/yamanashi_ren01/bao-shou-xing-wogao-meru-aws-cdk-noseoribesutopurakuteisu)
13. AIエージェントが書くのなら直接CloudFormationを書かせればいいじゃないですか何故AWS CDKを使う必要があるのさ :  
<https://speakerdeck.com/watany/do-we-need-cdk2>
14. <https://speakerdeck.com/gotok365/how-aws-cdk-works>